

緑野中学校 バレーボール部 第九支部大会 結果報告

発行者：安江涼太 吉原脩平

先日行われた、第九支部大会の結果を報告いたします。

一回戦の向陽中戦は非常に接戦となりました。第一セットは、途中まで8連続ポイントを取られるなど、苦戦を強いられる展開に。しかし、緑野のサーブが相手の攻撃リズムを徐々に崩していき、一時は5点差あった試合をひっくり返します。2セット目は惜しくも落としてしまいましたが、そこで集中を切らさず、3セット目を勝ち取って二回戦へコマを進めます。

二回戦の相手は、都大会出場常連校の文化学園大学杉並中でした。圧倒的な力を見せられながらも、要所でサーブポイントを奪ったり、自分らの形をしっかりと作ってスパイクで点を奪ったりと、強豪校相手に自信のつく良いゲームとなりました。

試合結果

<一回戦 向陽中学校>

第1セット ○27-25

第2セット ●24-26

第3セット ○25-18

<二回戦 文化学園大学杉並中学校>

第1セット ●5-25

第2セット ●10-25

価値のある勝利

自分たちの流れを作れずに負けてしまう試合が最近多かった中で、今回の試合はいずれも自分たちのペースを掴んで試合運びができたように感じます。そこには「サーブをほとんどミスなく決めることができた」、「サーブカットをいつもよりもセッターに返すことができた」などのプレーの部分と、「試合前の準備や、コートチェンジの間の行動を素早く行うことができた」、「試合に出ている人も出ていない人も大きな声をだして盛り上げるこ」とができた」といったプレー以外の部分がしっかりと噛み合っていて影響していたと思います。夏季研修大会後に課題として上がった「駆け足や声掛けの徹底」が早速実を結びつつあるのでしょうか。その点で今回の勝利は非常に価値のあるものでした。

チームを救う『優しさ』

ケガしてしまった人に肩を貸してあげたり、試合に出ている人が水分補給しやすいうようにと水筒をきれいに並べてあげたり、些細に思われるけれど、大きな力になる「優しさ」を垣間見ることができた今回の大会でした。非常にうれしかったです。ただバレーボールが上手いだけだと、チームとして成長できません。一人一人のそんな心掛けが、チームを更に強くしてくれるでしょう。